

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890100153
法人名	日本ケアシステム株式会社
事業所名	グループホームよるこび
所在地	松山市堀江町甲2082-1
自己評価作成日	平成23年7月13日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成23年7月29日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

海と山が近く、自然に恵まれた場所にあるグループホームです。ゆったりとした暮らしの中でよるこびを感じ、自然と笑顔がこぼれる生活を大切にしたいと思っています。職員は常に笑顔で接する事をこころがけ、その笑顔が入居者様の笑顔を引き出し、共に笑うことで心温まる交流が図れるように努めています。

管理者は、利用者に「家で過ごすように事業所でも過ごしてほしい」と考えておられ、環境作りにも力を入れて取り組んでおられる。野球がお好きな利用者にはラジカセを準備して、居室でも野球放送を聞いたり、お好きな音楽を楽しめるようにされている。ベットの横に畳を敷き、ご本人の気分でお好きなところに布団を敷いて休む方がおられ、職員は「利用者の寝かたの好み等が分かってきた」と話しておられた。事業所では、この1年間で2名の利用者の看取り支援に取り組まれた。ご家族と相談しながら、ご本人のお好きなものを口にするよう支援されたり、お好きな曲を流す等して、ご本人らしい最期を過ごせるよう配慮された。

### ・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. <b>利用者の2/3くらい</b> 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. <b>毎日ある</b> 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. <b>利用者の2/3くらい</b> 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. <b>利用者の2/3くらい</b> 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. <b>利用者の2/3くらい</b> 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	1. <b>ほぼ全ての利用者が</b> 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. <b>利用者の2/3くらい</b> 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホームよろこび

(ユニット名) \_\_\_\_\_

記入者(管理者)

氏名

金澤 大輔

評価完了日

平成23年 7月 13日

# 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価)	
			笑顔という理念のもと笑顔で入居者様に接する事によって入居者も笑顔で生活できるように心がけている。	
			(外部評価)	
			事業所は「笑顔」という理念のもと、利用者の笑顔が引き出せるようかかわることに心がけておられる。事業所のパンフレットにも理念を示して、利用者が日々笑顔でいられるようにサポートしていきたいと考え取り組みをすすめておられる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価)	
			地域の回覧板回しのスタート地点となっており入居者様と一緒に回覧板を回しに行っている。また運営推進会議に参加して頂いている民生委員を通して地域のボランティア団体の協力を得て伊予万歳などの披露などを行っている。まもる君の家の設置にも協力している。	
			(外部評価)	
			事業所は、町内会に加入されており、回覧板で地域の情報を知ることができるようになっている。今後、事業所のことを地域の方達にもさらに知っていただくために、回覧板でホーム便りを回す等、情報発信をしていきたいと考えておられた。民生委員の方から、地区のボランティアを紹介していただき、敬老会には、踊りや歌を披露していただいた。今後さらに、利用者が地域の方達とともに活動できるような機会作り等にも、取り組んでいかれてはどうだろうか。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価)	
			他の部署と共同での行事を行う際には、地域の方やボランティアの方にも参加して頂き入居者様との交流を図っている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議通じて他の事業者の方や民生委員ご家族様に支援困難事例の相談を行い色々な目線からの意見を聞き介護現場で取り組むようにしている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議には、民生委員やご家族、他グループホームの職員の方等が参加してくださっている。ご家族にも順番に声をかけて参加いただけるよう働きかけておられる。会議では、職員が受けた講習会の内容を報告されたり、落ち着いた状態にある利用者のケアについて、参加者から意見をお聞きしたこともある。</p>	<p>職員は他グループホームの運営推進会議にも参加されており、他ホームの会議のすすめ方を参考にして 事業所でも会議メンバーや内容について工夫していきたいと考えておられた。さらに、会議を活かし、事業所のことをより多くの地域の方に知っていただけるよう取り組みをすすめていかれてほしい。又、地域のネットワークを拡げて、利用者の生活をより拡げていかれてほしい。</p>
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議通じて他の事業者の方や民生委員ご家族様に支援困難事例の相談を行い色々な目線からの意見を聞き介護現場で取り組むようにしている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議時、他事業所の取り組み事例を教えていただき、事業所のサービスについて意見を聞かせてもらうこともある。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 日中玄関は施錠しないようにしている夜間は安全の為施錠している。やも得ない理由の為1名のみ拘束を行っているが家族様より同意書を得ている。</p> <p>(外部評価) 入居間もない利用者は、行動等、ご本人の様子を観察して、落ち着いたような時には職員が寄り添い見守りながら対応されている。現在、車いすからずり落ちないように、両わきにクッションをおき、ひもで体を固定している利用者もみられる。管理者は「今後、職員でケアについて話し合いを行い、身体拘束をしなくてもすむように支援していきたい」と話しておられた。今後さらに、利用者が安全に自由な暮らしができるような取り組みについて、ケアに工夫できることはないかということ話し合い実践していかれてほしい。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 管理者は虐待防止の講習を受け職員に伝達している。常に気持ちに余裕を持ち優しく入居者様に接する事の出来るように職員会などで伝えている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 管理者は成年後見制度権利擁護について学んでいるが以前部署全体で成年後見制度を学んだが講習間隔が空いているので再度伝達しなければならない。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には重要事項説明書に沿って説明し分かり易い言葉で説明し疑問や不安を聞くようにし家族様に理解していただくように努力している。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 管理者は入居者様の家族様が面会に来られて際話をする機会を持ち要望や意見を聞き対応運営するようにしている。玄関先にご意見箱を設置し気兼ねなく意見を言えるような環境作りをするように努めている。 (外部評価) 毎月、ホーム便りと利用者個別のお手紙で、ご家族に利用者の生活の様子を報告されている。管理者は、ご家族とのコミュニケーションを大切に考えておられ、ご家族の来訪時には、利用者の様子やよく話すこと等を伝えて、ご家族からも以前のことを教えてもらったりケアについての意見や要望をお聞きしている。ご家族からの意見や要望はそのつど話し合うようにされている。	さらに、事業所の理念や運営推進会議の内容や事業所が特に力を入れて取り組んでいること、職員の紹介やケアの事例等、ご家族が知りたいことを知ることができるような報告の工夫に取り組みしてほしい。そのような取り組みから、ご家族の意見や要望を具体的に引き出して、事業所のサービス向上への取り組みにつなげていかれてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	月1回職員会議を開き職員の意見を聞くようにしている。緊急に話し合いをしなければならない事柄が発声した場合臨時職員会議を開き意見を聞き話し合い業務に反映できるように努めている。
			(外部評価)	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	職員は年2回自己評価表を記入し自分の仕事に対する評価を提出している。
			(外部評価)	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	管理者は研修または自分が修得した知識等を職員会議などで話したりまた実行するようにし職員のレベルアップに努めるようにしている。
			(外部評価)	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	他の事業者運営推進会議に管理者以外の職員も出席する機会を設け他の事業者の環境やサービスの実施状況などを感じてもらい自事業所に取り入れられるものまた反映できるような機会を設けている。
			(外部評価)	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	入居時に本人の馴染みのある物を持ち込んでもらう事も出来る事を家族様また入居される方に説明し落ち着いて生活できるように努めている。
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入居前に家族様また本人に見学してもらい入居にあたっての不安要望などを聞きまた在宅生活中に困っていた事などを聞いて入居されてからまたされるまでの間の情報収集に努めるようにしている。</p>	
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>職員は家族様と本人に入居するにあたってどのような生活サービスを望んでいるのかを話し合い医療との連携等についても話している。</p>	
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>職員は介護する一方では無く一緒に生活する中で入居者様の得意な事を見出し伸ばして行き行ってもらうように努めている。</p>	
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>職員は家族様が面会に来られた際生活状況などを話した出来だけ面会してもらえように入居時に説明したり家族様と外出してもらって家族水入らずな環境を楽しんでいただくように努めている。</p>	
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>グループホームでドライブに行く際などは馴染みのある場所を通ったり入居者様の地域の方が面会にきてくださったり馴染みの関係が途切れないように努めている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>利用者が以前暮らしていた場所を訪ねることもあり、懐かしそうにその頃の様子を話してくださるようだ。利用者のご自宅の近所の方が来てくださり、居間で一緒に過ごされることもある。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 職員が入居者間の関係を把握して一緒に会話したり作業を行なったりできるように努めている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約が終了しても必要に応じて家族様の相談や支援ができるように努力している。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 家族様から生活に対する意向やまた本人様がどのような生活をされてきたか情報を聞き可能な限り意向を尊重し今まで行ってきた生活スタイルを行えるように検討している。 (外部評価) 管理者は、職員に「利用者ご本人の表情を見てかかわることが大切」であることをよく話しておられる。日々の介護記録には、利用者の様子や発する言葉、又、職員のかかわり方を記録して、職員間で共有されている。今後さらに、利用者個々の思いや意向を深く探り、利用者の笑顔を支える支援に向けて、アセスメントの工夫にも取り組んでいかれてほしい。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族様からどのような生活歴暮らし方などをしてきたか聞いたり共に生活する中で行動等を観察し生活歴また本人の長所を伸ばして生活できるように努力している。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 共に生活する中で一人ひとりの能力また精神状態また身体状態や表情などを見てその時に合った現状を把握し行動できるように努力している。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	(自己評価)	
			<p>介護計画を作成するさいは家族様また本人との日常会話から知る事のできたニーズなどを介護計画に反映できるように努めている。</p>	
			(外部評価)	
			<p>介護計画は、日々の記録をもとに、ご家族や利用者の意見も採り入れ、利用者個々の担当の職員で話し合い計画を作成されている。健康面が気になる利用者は、医師の意見等も計画に採り入れられる。来訪が難しいご家族には、職員がご自宅に訪問して、介護計画について説明をされている。落ち着かない状態の利用者のケアについて、運営推進会議時に意見交換したことを支援の参考にされたこともある。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	(自己評価)	
			<p>本人が話した会話の内容表情などを記録した介護計画実施時にどのように行っていたかまた機能向上、低下など今後の介護計画作成に反映できるような記録になるように努力している。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	(自己評価)	
			<p>併設型の長所を生かし他の部署などへの行事に参加して交流を行ったりまた運営推進会議を通して繋がりを持った他の事業所の行事等にも参加したりして努力に努めている。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	(自己評価)	
			<p>民生委員さんを通じて地域のボランティア団体などの協力を得て出し物を行ってもらったりして入居者様が楽しめる機会を提供できるように努力している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>家族様が納得していただけるようにかかりつけ病院への受診に同行して頂いたり家族様が都合の悪い場合は職員が通院に同行また訪問診療を利用したり状況に応じた対応をしている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>協力医が月2回、往診に来てくれるようになっている。ご家族が病院受診に付き添われる方もある。ご家族が受診に付き添う場合は、職員が利用者の様子をご家族に説明され、又、受診後は受診結果を聞くようにされている。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>協力医療機関により定期的に訪問診療にきていた事により主治医や看護職との連帯を図りまた体調不良時には電話連絡をし速やかに受診するようにしている。</p>	
			<p>(外部評価)</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入院時は職員が面会に行き医療機関また家族様と情報交換をし退院ごとのような事の注意するのにかまた退院後の意向等を確認を行うようにしている。</p>	
			<p>(外部評価)</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>終末期には家族様の意向を尊重し主治医との相談し対応するようにしている。また本人がどのようなにしたいか家族様から情報を聞き可能な限り希望に沿えるようにしている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>事業所では、この1年間で2名の利用者の看取り支援に取り組まれた。ご家族と相談しながら、ご本人のお好きなものを口にできるように支援されたり、お好きな曲を流す等して、ご本人らしい最期を過ごせるよう配慮された。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 全体で救急法を学んだりAEDを設置し職員が必要となった際に使用できるように訓練をおこなって救急時に対応できるように努力している。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 全体で年2回消防、非難訓練を行っている。また介護職員室に非難経路図を掲示し迅速に非難できるように努めている。 (外部評価) 3月に敷地内の法人事業所全体で、火災を想定した避難訓練を実施された。	事業所の立地条件や利用者の状態等も踏まえて、火災以外にも地震や津波等も想定した訓練を重ねていかれてほしい。地域の取り組み等の情報も得て、地域と協力し合えるような体制作りにも取り組んでいかれてほしい。
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 入居者様一人ひとりに合った声かけや居室に入室する際は声かけ入室するようにしている。また個人的な要望などあまり聞かれたくない場合は居室にて聞くようにしプライバシーの確保に努めるようにしている。 (外部評価) 利用者の方の呼び方を、ご家族とも相談して、以前から呼ばれ慣れている「先生」と呼ぶような方もいる。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 生活の中での会話や表情を観察しまた今までの生活スタイルなどを考慮し希望に沿えるように努めている。自分で表現出来ない人には普段と違う仕草や表情を見逃さないように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 介護者中心ではなく入居者様中心主導権を握ってもらうようにし可能な限り一人ひとりのペースで生活できるように努めている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 出来るだけ本人に洋服を選んでもらうように努めている。また家族様が新しい洋服を持って来られた際本人にその洋服を見せ洋服を選ぶ際に勧めたりしている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 職員は同じテーブルを囲みながら食事をし一人ひとりのペース状態に合わせた援助を行っている。また片付けの際には家事の得意な入居者様にその日の心身面を考慮しながら手伝っていただいている。	
			(外部評価) 食事に制限がある利用者には、他の利用者と食材や量の違いが分かりにくいように調理されたり、調査訪問時には、下膳、食器洗い、をされる利用者がみられた。移動パン屋が来てくれて、利用者はおやつのパンを買うことを楽しみにされている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの食事量や水分量を記録し栄養面に注意している。また好みの食べ物飲み物を用意したり本人が進んで摂取できるようにしている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後歯磨きを行い口腔清潔に勤めている。また口腔ケア用のスポンジや化学洗浄法などを行い個々に合った口腔清潔を行えるように勤めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 可能な限りトイレで排泄するように援助している。またオムツ類も季節身体状態に合わせ使い分けるように援助し可能な限り排泄パターンを掴み個々にあった排泄援助が行えるように努力している。 (外部評価) 居室で放尿する利用者には、よく放尿する場所にポータブルトイレを置くことで、ポータブルトイレに排泄するようになった事例がある。現在は、時間ごとに職員がトイレに誘導されているが、今後、管理者は、排泄記録等も工夫して、利用者個々の排泄パターンを把握して利用者個々に応じたタイミングでトイレに行けるような支援をすすめていきたいと話しておられた。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分摂取を1日最低1500cc摂取できるように努め便秘気味の方には運動を行ってもらおうよう働きかけるようにしている。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 週2回の入浴日を決めているが本人の希望や状態などに合わせ入浴日を変更したりまた意志を尊重しながら可能な限り湯船に浸かっていただくように努めている。 (外部評価) 職員の体制のこともあって、現在は、週2回、午後からの入浴になっている。又、浴槽で温まることができない利用者もおられ、事業所は、今後は利用者の希望をお聞きして、希望に沿った支援ができるような体制を作っていきたいと考えておられる。	利用者個々の入浴の習慣や好み等も採り入れながら、さらに個々が気持ちのよい入浴を楽しめるような支援に工夫していかれてほしい。
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 適度な休息が取れるように入居者様の表情や仕草などを観察し声かけを行い居室またフロアーにて休息また足を伸ばしていただけるように努力している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人ひとりの内服薬の説明書をファイルし副作用や薬効などを確認できるような環境整備に努めている。服薬管理は職員が行い誤薬等ないように努めている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 食器拭きやおしぼり巻き、洗濯もたたみ干し等入居者様が得居な事柄を観察してできる範囲で役割を見出せるようにしている。また月に1回は外出をし季節の花や動物鑑賞など気分転換を行えるようにつとめている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 一人ひとりの希望要望を考慮し近くの海などに散歩に出掛けたり他の事業所の即売会に出掛けたりして活動的に過ごして行けるように努めている。 (外部評価) 甘いものがお好きな利用者が多く、おやつを買いに出かけることもよくある。動物園に出かけた際には、レストランで利用者個々がお好きなメニューを選んで食事をされた。又、ご家族と外食に出かけるような方もある。外出を嫌がるような利用者もおられるが、職員は、外出の機会のためにご本人にも声をかけることを続けておられ、堀江の花火大会の際には、事業所の上階で花火を観賞され、楽しまれたことに職員はとても感動されていた。	さらに、外出支援については、ご家族等にも希望や要望をお聞きしてみてもうだろうか。又、運営推進会議等を活かして、事業所の外出支援の取り組みを知っていただき、意見や感想をお聞きしてみてもうだろうか。利用者一人ひとりが主体となるような外出支援や日常的に外に出るような支援についても、ご家族や地域の協力を得ながらさらに、取り組んでいかれてほしい。
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族様からお金を預かり事業所で管理しているが本人様が好きなものを一緒に買い物に行ったりまた事業所にパン屋さんに来られた際などはパンの好きな方に声をかけパンを買ったりしている。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 事業所から家族様に連絡する際に入居者に電話に変わって頂いたりまた要望があれば手紙や電話のやり取りが行えるように支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 入居者が心地良く過ごして頂けるように自然な風や光などを取り入れ過ごしていただけるように援助している。また夏季や冬季などは温度湿度計を目安に心地良い環境整備に努めている。飾りつけ等季節にあった飾り付けを入居者と一緒に可能な範囲で作成している。</p> <p>(外部評価) 玄関には、利用者で作った七夕飾りが飾られてあり、中には「チョコレートが食べたい」と、願いごとを書いておられる利用者もあつた。和室には、利用者が横になれるよう掛け布団が準備されていた。トイレや居室に名称を示すことで、利用者が場所を間違ふことが少なくなつたようだ。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合つた利用者同士で思い通りに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 畳コーナーで休息を取つたり玄関先のベンチで気候の良い時など外気を行つたり気のあつた入居者同士で過ごせるような環境づくりに努めている。</p>	
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 本人、家族様などと相談し畳のほうが落ち着く場合は畳を用意し今までの生活スタイルに合わせた環境作りを行えるように努力している。</p> <p>(外部評価) 管理者は、利用者「家で過ごすように事業所でも過ごしてほしい」と考えておられ、環境作りにも力を入れて取り組んでおられる。野球がお好きな利用者にはラジカセを準備して、居室でも野球放送を聞いたり、お好きな音楽を楽しめるようにされている。ベッドの横に畳を敷き、ご本人の気分でお好きなところに布団を敷いて休む方がおられ、職員は「利用者の寝かたの好み等が分かつてきた」と話しておられた。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) トイレや廊下に手すりを設置し安全に移動できるような環境整備を行っている。出来るだけ自立した生活ができるように努めている。</p>	